

郵便物取扱状況(昭和五一・五・一〜五二・四・三〇)

資料/「町勢要覧」昭和五二年版

局名	郵便		小包	
	引受	配達	引受	配達
落台	八二、七三六	一七五、〇〇二	四三一	四一八
幾寅	一四七、六一八	二三九、七六七	一、八五八	二、九四七
鹿越	八三五		三三六	
金山	四一、四五〇	一三八、四六三	四九五	二、五九五
下山	五〇五		二五〇	
計	二七三、一四四	五五三、二二三	三、三七〇	五、九六〇

落合郵便局 明治三十五年(一九〇二)二月一日、字落合一九

四一番地の一に創設、同日、郵便、為替、貯金事務を開始した。

『石狩国落合郵便局事務概要報告表』によれば、明治三十五年度概

要を、次のように記している。

水陸運 旭川方面へ官設鉄道十勝線に依り旅客及諸貨物ノ交換ヲナスト雖モ

十勝方面へ今ハ設備中ニシテ唯新開道路ナレバ融雪及雨後ニ於テハ泥濘膠ヲ

没シ交通甚タ困難ナリ水運ノ便ナシ

生業 落合ニ於ケル主ナル生業ハ伐木ニシテ農ハ微々タルモノナリ 幾寅及

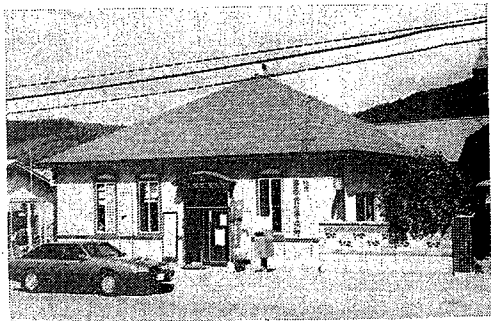
鹿越ニアリテハ主客其位置ヲ転倒シ農ヲ以テ生業トシ伐木ハ其副業タリ 隧

道ニハ自今隧道開削工事ナレバ労働者約三千人入込ミ労働ヲ以テ生活セリ

其他ニケノマツチ工場アリ

業務繁閑 開局日尚ホ浅シト雖モ官設鉄道十勝線ノ終点ニシテ十勝方面ト石

狩方面トノ中継局ニシテ継越物数ノ多キ加フルニ現今十勝国境隧道開掘工事



落合郵便局

中ニシテ労働者多数入込ミ居レハ引受、配達物数モ戸数ニ比較シ夥多占ム通送人五人

明治四三年(一九一〇)三月二六日、幾寅郵便局の集配事務開始により、当局の集配事務を分割する。大正五年(一九一六)一月一日、簡易保険、郵便年金事務を開始する。昭和四年二月一日、電話事務を開始。八年三月

二六日、電信事務を開始する。一一年一月一六日、電話交換事務を開始。一六年一月六日、富良野、落合電信電話共用回線を開設する。二五年一〇月一日、新得、落合間、臨時電話線開通する。

二七年七月一六日、局舎が字落合一〇九三番地へ移転する。同年八月一〇日、開局五〇年記念式典を挙行する。三〇年九月一〇

歴代郵便局長

資料/「落合郵便局資料」

歴代	氏名	就職年月	歴代	氏名	就職年月
初代	小野 担		四代	上原 亀太郎	
二代	有光 範晴		五代	池田 竜夫	昭和二六年七月
三代	森 安太郎		六代	原田 光明	〃 五七年七月

日、新得く落合間、電信電話線となる。五三年六月二八日、電話交換事務を廃止した、電話交換取り扱い当時は、定員も一六名で郵便物調

あつたが、現在は八名となった。五九年二月、従来の郵便鉄道輸送方式から、自動車輸送へと変更になった。

資料「落合郵便局資料」

区分	年度		昭和三五年		四〇		四五		五〇		五五		五九		六〇	
	配	引	達	受	配	引	達	受	配	引	達	受	配	引	達	受
郵便	配	引	一、四六四	一、四六四	三、〇八四	三、〇八四	一、八三四	一、八三四	九七四	九七四	七三四	七三四	四三四	四三四	四七四	四七四
小包	配	引	一、〇一八	一、〇一八	一、〇五三	一、〇五三	七四七	七四七	四九四	四九四	四五一	四五一	三七〇	三七〇	四五七	四五七
電報	配	引	一、九一三	一、九一三	二、七六六	二、七六六	一、二六〇	一、二六〇	五四六	五四六	二一六	二一六	三三二	三三二	三	三
	達	受	一、六五四	一、六五四	二、六八四	二、六八四	二、二八四	二、二八四	一、三二四	一、三二四	一九四	一九四	一、〇五四	一、〇五四	八五四	八五四
	達	受	三、一三五	三、一三五	一、二〇〇	一、二〇〇	六三一	六三一	二七八	二七八	三三〇	三三〇	三九九	三九九		

金山郵便局 明治四〇年(一九〇七)三月三十一日、字金山市街地

一三番地に移転、同時に郵便集配、為替、貯金事務を開始した。

四五年(一九一〇)四月二六日、字金山市街地三二番地へ移転。

正一二年(一九二三)一月二二日、字金山基線七号の新局舎へ移

転す。一五年(一九二六)一月一日、公衆電話並びに電話事務を開

始。昭和四年(一九二九)二月二六日、右左府線開通により公衆電話中継を

開始する。九年(一九三四)二月二一日、三度び局舎を移転する。

昭和三年五月九日、金山く日高間、専用自動車郵便線路開

設。三六年(一九六一)一月二六日、村内即時通話実施。三九年八月二三

日、字金山九三三番地へ局舎新築移転す。三九年八月二九日、電

話交換機増設二台となる。四二年(一九四七)二月七日、郵便用バイク四台

配備す。四五年七月二四日、電話交換半自動化集外集中となる。



旧金山郵便局